

令和6年度 第2回守口市市民協働推進会議 会議要録

令和6年10月17日(木) 午前9時30分
中部エリアコミュニティセンター 会議室2

出席者
【委員】 久保由加里会長、田中逸郎副会長、深田政好委員、平井良治委員、東野邦子委員、吉岡万里子委員、加藤淳一委員、仲嶋浩平委員 【事務局】 コミュニティ推進課課長 山本、課長代理 西井、主任 藤田、一井 【会議傍聴者】 なし
会議要録
【開会】 ○出席委員の確認 出席委員8名(欠席委員:小出委員) ○配付資料確認 ○プレゼンテーションの進行確認 各団体プレゼンテーション15分・質疑応答15分の30分程度とする。
【議題1】 「守口市公募型協働事業提案制度(令和6年度募集、令和7年度実施分)第2次審査・公開プレゼンテーション」
◆(プレゼンテーション1) 「2025 薬物乱用防止キャンペーン「薬物はダメ。ゼッタイ。コンサート」:守口地区保護司会 -----【プレゼンテーション】----- 【質疑応答】 ○委員 この事業につきましては、過去からも市民協働推進事業として実施されている中で、非常に重要なテーマであると考えてございます。その上で、何点か確認をさせていただきたいと思います。 ここ数年間、コロナ禍の中で、協働事業としては開催は見合わせていたけれども、啓発イベントという形で規模を縮小しながら実施をされてきたということをお話しいただいたと思いますが、具体的に、どのような形で実施をされておられたのでしょうか。 ○守口地区保護司会 基本的には、同じです。イベントの中では、1部で基調講演、2部でパネルディスカッションや、昨年度は吹奏楽で、できるだけ幅の広い方に参加いただくということでさせていただきました。ただ、ホールで開催となればお金がかかりますので、学校にお願いし、体育館をお借りして開催する形で開催してまいりました。

- 委員 ありがとうございます。その費用は、保護司会さんのほうで準備していただいたということですね。
- 守口地区保護司会 そうです。
- 委員 今のお話でいくと、その基調講演やパネルディスカッションを含めて開催されており、今回改めて協働事業として御提案いただいたのは、金銭的に会場の使用料が大きな御負担となるということですね。
- 守口地区保護司会 そうですね。それと、できるだけ皆さん周知されてる方を呼びたいと思っており、講演料もかかります。市の建物も、市が外郭団体に委託して運用されておりますので、以前よりホールの使用料が上がっているということもありまして協働でお願いしたいと考えてます。
- 委員 はい。仮に、この協働事業として、市民協働推進会議の中で、実施する方向でという形になった場合に、行政として、その協働事業の市の負担分というのは、当然ながら予算編成の中に盛り込んでいかなければいけないと思ってるんですけども、今ここで否定的なことを申し上げるつもりはないのですが、今の段階では、必ずしも行政の負担分をお約束できるものでもないということになります。そういった中で、仮に協働事業としてできなかった場合であっても、令和7年度において同様の趣旨の事業というのは実施していただけると考えてよろしいのでしょうか。
- 守口地区保護司会 はい。プレゼンテーションでもお話ししましたように、ほんとに今、薬物問題、青少年に犯されている問題はすごく大変なところまで来ていますので、こういった事業の継続として、もし協働事業にならなくても、保護司会としてできる範囲の中で続けていきたいと考えております。
- 委員 はい。ありがとうございました。
- 委員 プレゼンテーションの資料では、大阪府全体の薬物の件についてグラフの御説明がございました。守口市としては、どのぐらい増えているのか減っているのか分かりますか。
- 守口地区保護司会 我々も例えばいろんなところで講義やイベントのときにお話ししたいなと思ひまして、守口警察署のほうにも聞きましたが、具体的な数字はお教えできないということでした。ただ、我々、17年ほど学校の薬物問題に取り組んでおります。守口市内にいる少年の薬物の事犯というのは、ほんとにほかの市に比べて少ないということは伝わってるんです。それ以上の具体的な数字というのは、警察署からは聞いておりません。
- 委員 未成年ということもあるので、公表は警察もされておられないんだろうと思います。こういった事業のおかげで守口は少ないということで、よかったと思いますが、担当課では分かりますか。
- 担当課 細かくは私どもでも把握しておりませんが、おおむね全体の動きとして

は、守口市も同じ動きになってると思っております。引き続き啓発の必要性がある現状には変わらないと思っています。

○委員 先ほどのプレゼンの資料のグラフのように、覚醒剤なんかは減ってるけれども、青少年の大麻については微増、増えてる傾向にあるという先ほどの資料でしたが、守口市もそのような認識ですか。

○担当課 はい。特に地域差というのは。特段、守口市において、ほかの地域と比べて顕著に差があるというふうには思ってません。やはり世間で言われている青少年の薬物については、早期から取組・啓発に取り組んでいかないといけないという担当課としての認識です。

○委員 ありがとうございます。もう1点、保護司会さんがこのように熱心に活動されている一方で、行政の担当課は、薬物の乱用や青少年の問題について、どのような対策や事業をされておられるのでしょうか。

○担当課 地域福祉課は、保護司会さんと連携しており、具体的な事業というのは、とりわけしておりません。ただ、令和4年度に、第4次地域福祉計画を策定した際に、再犯防止推進計画というものを策定いたしまして、これが、再犯という観点ではあるんですけども、更生保護団体、保護司会さんとどんどん取り組んでいく、連携していくとしております。その関連で、大きくは薬物についてなんですけど、よりよい守口市としての安全なまちを目指して、青少年についても取り組んでいかないといけないという計画と同じ流れに沿ったものだと思っております。とりわけ、青少年、この薬物乱用ということに関しての事業というのは、ほかにやってないというのが現実ではあるんですけども、これからも取り組んでいかないといけないと思っています。また、総合基本計画の青少年というテーマの中で、薬物乱用から青少年を守るという課題、これも記載されておりますので、これからも保護司会さんと連携して、こういった取組は進めていかないといけないと思っています。

○委員 ありがとうございます。

○委員 こういう薬物キャンペーンって、繰り返し繰り返しやる必要があると思うんですけども、同じことの繰り返しか、それとも、過去にされたことにひと工夫を加えてやっていただいているのか、それと、人数の集客についても、単に地元の会場の保護者だけなのか、守口全体にそのようなことを知らしめるのかをお教えいただけますか。

○守口地区保護司会 御指摘ありましたように、我々も集客の部分では大変難しく思っています。保護司会中心に、更生保護の人とか、普段からそういうことに関わりのある方が参加するような形になってしまったので、それではいけないということで、全市民にできるだけハードルを低くした形で来ていただくようにという中で、今回、昨年も独自で実施しましたが、吹奏楽コンサートというこ

とで、ハードルの低いところに来ていただいて、その中で薬物のことをちょっとでも感じていただいて、また家に帰って、家でそういう話をしてもらうような、そういう形になればなという思いです。毎年同じこともしないといけないところもありますし、もちろん、少し変えていろいろな方々に来ていただくような工夫ということで、いろいろな有名な方を呼んで講演したりしたこともありますし、普通の固いディスカッション、パネルディスカッションをした場合もあります。今回は吹奏楽ということと、著名な方の講演ということで、2本立てでいこうと思っております。

○委員 分かりました。

○委員 何か集客をする目標数みたいなものは、設定されてらっしゃるんですか。

○守口地区保護司会 目標数は、やはり400人規模のところでしたら、400人入っていただきたいなと思っております。今まで正直なところ、最初は3分の1ぐらいしか集客力がなかったんです。そこから、いろいろなイベントをして半分になり、去年は吹奏楽をしたこともあって、さつき学園という大きなアリーナがあるところでしたんですけども、一応、300席ほとんど埋まるような形で開催できましたので。今回、ホールですということ、エナジーホールで450人ぐらい、もし守口市の図書館でしたら220～300ですので、それぐらいはできるだけしたいなというところです。

○委員 これを実施されて、それに対する例えば効果測定みたいなものとか、それによって、実施することによって得られた効果が、その後、市民にフィードバックされる実態というものはあるんでしょうか。

○守口地区保護司会 効果測定というのは、なかなか難しいところがあるんですが、毎回アンケートを採らせていただいて、そのアンケートを基にして、また次年度のキャンペーンにつなげていけばという形にしております。もちろん保護司会の中でも、皆さんの御意見、市民の皆様の御意見を共有するという形にしております。

○委員 今回、若い世代を中心にと書いてあるんですけど、具体的に、保護者の方なのか、薬物を使う当事者、学生とか小学生とかターゲットはあるんですか。

○守口地区保護司会 今回は吹奏楽をやるということもありますので、中学・高校の方々にできるだけ来ていただいて、保護者の方も一緒に来られる場合もあると思いますので、ターゲットとしては中高生・大学生です。ただ、大学の方に周知するのは、一般に広報しかありませんので、中学・高校には学校へチラシ等を持っていきますので、そういった形でターゲットにしていきたいと思っております。

○委員 最後に、私のほうから少しお聞きしたいと思います。担当課になんですが、守口市の傾向、例えばですが、中学生が多いとか、あるいは、こういう方法が多

いとか、この辺で、という地域性とか、そういうことを今ここでお話しただかなくてもいいんですけれども把握されてるような部分というのはおありなのかないのか、守口市としての問題に関する特徴みたいなことは、ある程度把握はされてるんですか。

○担当課 具体的な数字を見たことはありません。地域性とか傾向というのは、とりわけお話しいただいたことはありません。ということは、逆に、その全体の流れと同じ方向性ということなのかなと捉えています。特段、守口市でこういったお話、こういったことが特徴ですということを警察署の方がお話しいただくときでも、そういったお話は聞いた記憶ではありません。やっぱり若年者、青少年のそういった薬物に対する危機感が薄いと思っており、啓発をどんどんしていけないといけないという認識は強く持っております。

○委員 ありがとうございます。この講師の方々を見ますと、やっぱり医療的な感じで、医学的な先生方からすると、どれだけそれが恐ろしいものかっていう説明をしていただけたらと思うんです。先ほど、「非常に身近な」という話をされてたと思うんですけど、恐怖はそこにあるんだよという。そのことで、例えば、入り口はどこからスタートしてしまうのか。最初に、みんな、これ大麻だからこれ飲もう、とか、これ吸おう、とか、そんな感じではなく入っていくことって多いと思うんですが、その何げない入り口っていうところの問題を、具体的に、例えば、中学生・高校生でも、こういうことが入り口になりやすいとかってというような話はあるんでしょうか。また、どこでしていただけるんでしょうか。

○守口地区保護司会 そうですね。医療の先生でするので、その辺はおっしゃるように、なかなか専門的なことに入ってしまう場合があつて、参加者とギャップがあることは否めないと思います。その辺は、保護司会の方から先に事前説明等をしてから、講演会に入るようにしようと考えております。

○委員 保護者からすると、毎日の生活の中でどこからスタートしてしまうのかっていうことって、非常に知りたい点だと思うんです。なので、そういうのがあるといいなと思いました。

○守口地区保護司会 参考にさせていただきます。

【最終審査】

◆提案事業名 2025 薬物乱用防止キャンペーン「薬物はダメ。ゼッタイ。コンサート」

――― 【検討・審査内容については非公開】 ―――

採択

○会長：これをもって今年度の協働事業に係る審査は終わりました。
最終結果としまして、今年度は2件の事業応募がありましたが、第1次・2次の審査の結果、自由課題提案型1件が来年度事業実施に向けて採択され、担当課と協議を進めていただきます。

【議題2】「答申（案）について」

- 会長：事務局から説明をお願いします。
- 事務局：内容につきましては、ご議論いただきました内容を盛り込む形で改めて作成いたしますので、内容の大筋やレイアウト等につきましてご意見、ご確認いただければと思います。
- 会長：内容の大筋やレイアウト等で、ご意見がありましたらお願いします。
(意見なし)
- 会長：それでは、大筋については、本日ご議論いただいた内容を反映させた形で事務局に答申を作成いただきます。答申の細部につきましては、前年度と同様に副会長と私に一任いただきたいと思いますので、併せてのご確認をよろしく願いいたします。以上でございます。各委員、何かご意見・ご質問等はありませんか。
(意見なし)
- 会長：では、本日の市民協働推進会議はこれにて閉会いたします。
皆さま長時間にわたりお疲れ様でした。

(終 了)